

< 実践事例 北区立稲付中学校 >

1. 取組・活動名

「豊かな国際感覚の醸成」 English Summer Camp (留学生国際交流)

2. 取組・活動のねらい

- 北区立那須高原学園にて3日間、留学生と交流し、様々なゲームやアクティビティを通じて基礎的な英語力の向上を図る。
- 豊かな自然環境の中で、留学生と一緒にハイキングやキャンプファイヤーなどを体験し、国際化に対応する実践的なコミュニケーション能力を高める。
- 自国の文化を調べ留学生に発信することで、自国への文化の理解を深めるとともに留学生の様々な国の発表を通して多様性の理解を深める。

3. 教育課程上の教科名・時数

「学校行事・22時間」

4. 実施上の工夫

- ・事前学習として英語科の授業において、外国人に自己紹介ができるよう、ハンドブックに英語を記入させ、練習に取り組みさせた。さらに日本の伝統的な文化や遊びを調べ、英語で留学生に伝えることで自国と他国の理解を深められるようにした。
- ・活動の際は日本語を使用せず英語を使用させた。宿舎には英語で書かれた多くの貼り紙を掲示し、あいさつの仕方やコミュニケーションが活発に行われるようにした。
- ・各グループに、違う国籍の留学生(15か国)を配置し交流の機会を増やした。2日目の夜には、それぞれの留学生から学んだ各国の文化を発表することで、多様な文化を共有することができた。

5. 本取組・活動の内容



「外国人留学生との生活」

- ・行きのバスから帰りまで日本語を使わず英語だけで会話することにより、自分の英語力を伸ばすことができた。
- ・各班に1人、キャプテンとして参加している外国人留学生と接することで、コミュニケーション能力の向上を図ることができた。



「他国の文化・歴史などについての理解」

- ・1日目、2日目を通して、各班の外国人留学生から出身国について紹介してもらい、生徒自身が日本を紹介することでそれぞれの文化の違いや自国の理解につながった。
- ・自分の班以外の外国人留学生とコミュニケーションをとることにより、様々な国籍の人と交流することができた。



「各グループによる発表」

- ・2日目の発表の練習を1日目に行った。真剣に取り組ませるため、各教員が観察をし、その態度も評価に入れるようにした。
- ・各グループの外国人留学生の母国の文化について発表をした。15グループ(15か国)の発表を全員が見て、最優秀賞を決めた。異文化に対する理解を深めたことにより、広い視野をもち、共生する態度を育成することができた。



6. 成果

- ・外国語に対する関心が高まり、本校の実用技能英語検定の3級合格者が東京都の目標値を超えるなど、英語力の向上を図ることができた。
- ・3日間の外国人留学生との共同生活によって英語力が向上し、日々の生活の中で積極的なコミュニケーションが多くなった。
- ・異文化に触れることで、自国と他国の理解を深め、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会で来日される外国人を「おもてなし」するために必要なことはどんなことなのかを考えることができた。